

じゃらんリサーチセンター×ブログウォッチャー共同研究より

# 「地図で読み解くインバウンド地方分散研究」 ～報告書～

2024年4月9日

じゃらんリサーチセンター 研究員 松本百加里

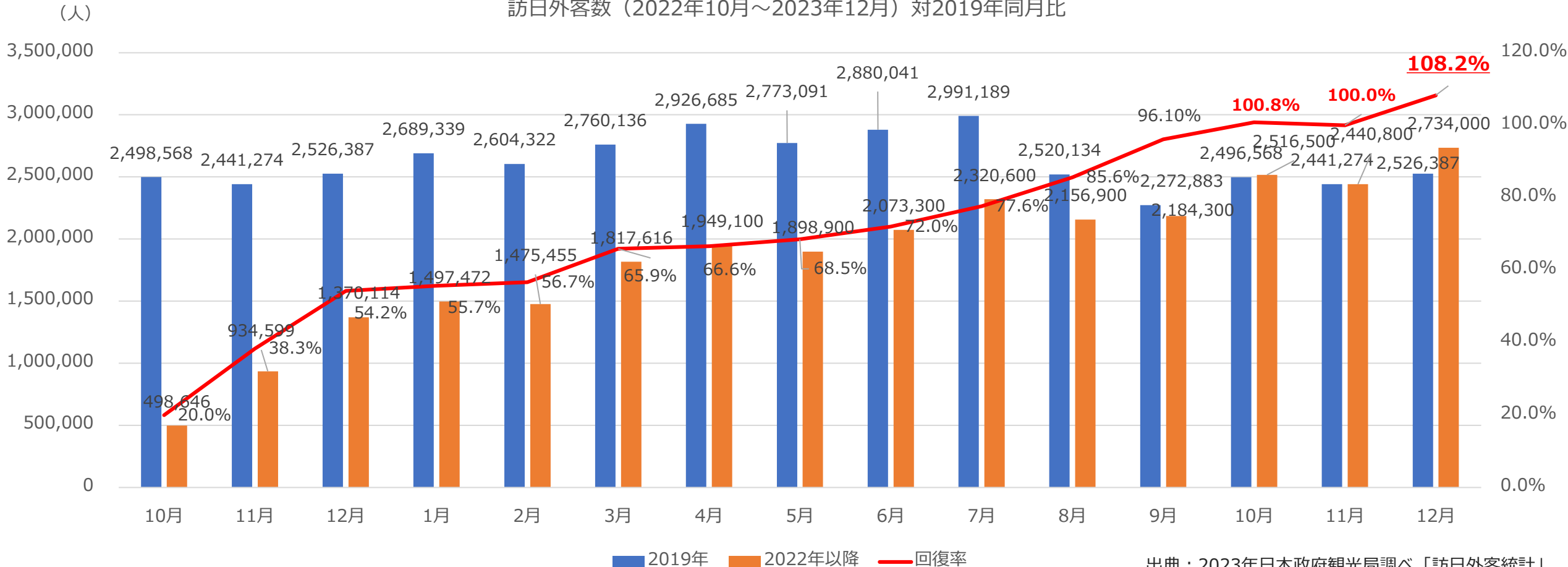


- **インバウンドマーケットの推移** .....P3-6
- **インバウンド地方分散への注力ポイントと必要な観点** .....P7-8
- **市場別の全国主要周遊ルート概要MAP・詳細MAP例** .....P10-14
- **ルート課題を見つけ出す診断チャート**.....P15
- **新たなモデルルートの検討ステップ案**.....P16

# 訪日外客数推移

2023年12月の訪日外客数は、2019年同月比108.2%となる273.4万人とコロナ禍以降で単月過去最多を更新。年間では**2,500万人を突破**。旅行消費額は**5兆2923億円**となり、コロナ禍前の19年の4兆8135億円を上回って初めて政府が目標とする5兆円を超えた。

訪日外客数（2022年10月～2023年12月）対2019年同月比



出典：2023年日本政府観光局調べ「訪日外客統計」

## 目 標

■ 早期達成を目指す目標：インバウンド消費 5 兆円、国内旅行消費 20 兆円

■ 2025年目標（質の向上を強調し、人数に依存しない指標を中心に設定）

持続可能な観光地域づくり	地域づくりの体制整備	① 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数【新】	100地域
	インバウンド回復	② 訪日外国人旅行消費額単価【新】	20万円/人
		③ 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数【新】	2泊
		④ 訪日外国人旅行者数	2019年水準超え
		⑤ 日本人の海外旅行者数	
	⑥ 国際会議の開催件数割合	アジア最大・3割以上	
	国内交流拡大	⑦ 日本人の地方部延べ宿泊者数	3.2億人泊
		⑧ 国内旅行消費額	22兆円

好調

好調

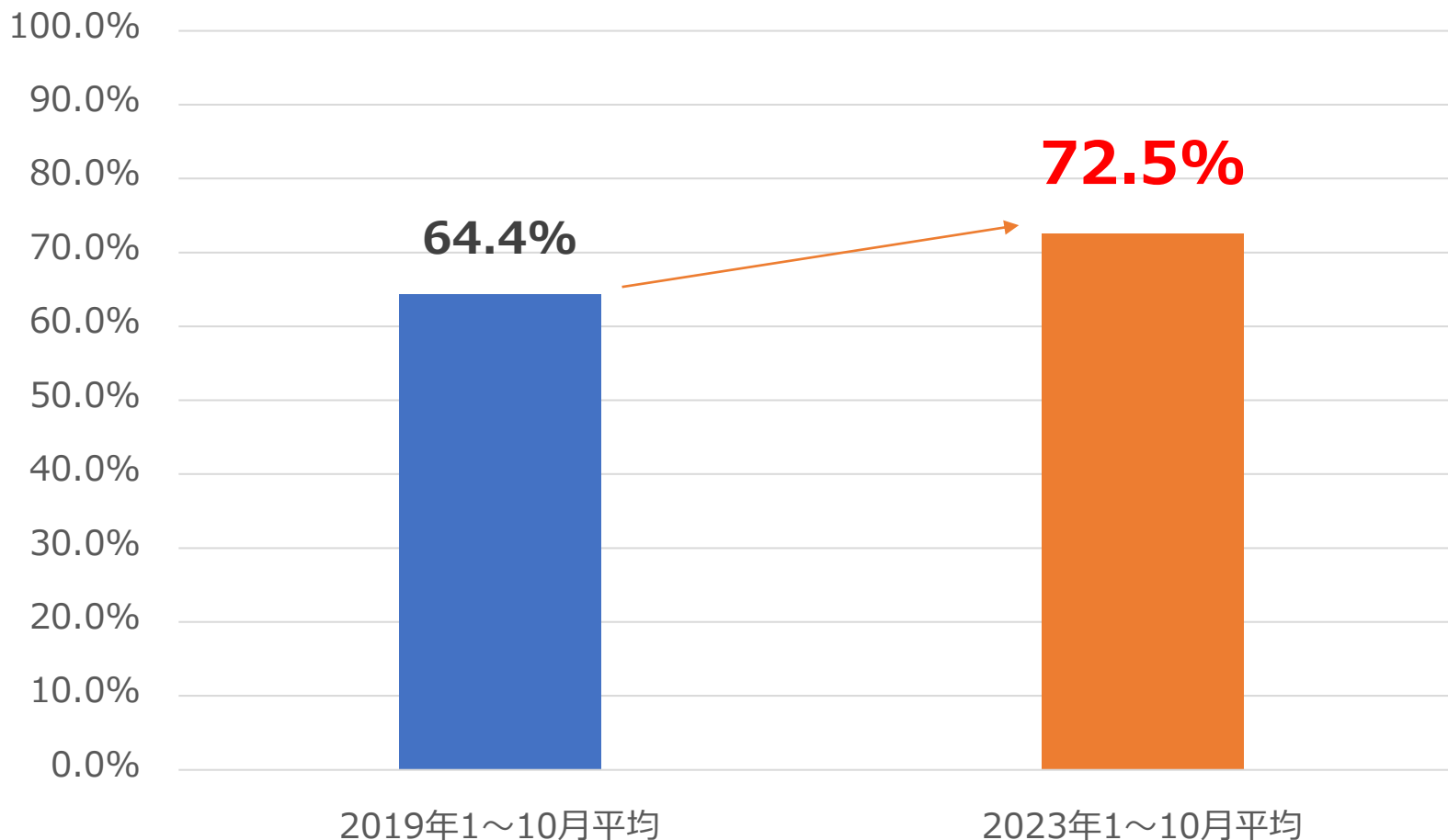
2019年実績の3000万人超えを目指し、オーバーツーリズムを回避しながら、地域住民も旅行者も満足度の高い旅行にしていくには、地方分散が不可欠。

# 都市部への外国人延べ宿泊者数の集中状況

2019年度の64.4%と比べて、2023年度は72.5%と都市部に集中する傾向にある。

\*三大都市圏とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県

三大都市圏\*の宿泊率比較



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

# 旅客便数の戻り状況

羽田空港と福岡空港のみ回復。その他の便はまだ回復しきれておらず、特に中部国際空港-54%と幹線以外のその他空港が-43%と回復が遅い状況。 ※幹線 … 札幌、東京、成田、大阪、関西、福岡、那覇の各空港を相互に結ぶ路線

空港	2023年冬期旅客便数 (便/週)	2019年対比
成田空港	1334	-21%
羽田空港	982	21%
関西国際空港	992.5	-25%
中部国際空港	207	-54%
福岡空港	392	24%
新千歳空港	123	-20%
那覇空港	123	-34%
その他の空港	158	-43%
合計	4311.5	-17%

出典：国土交通省調査「2023年冬期スケジュール期間（2023年10月29日～2024年3月30日）の事業計画」  
[https://www.mlit.go.jp/koku/content/001707036.pdf?fbclid=IwAR1VkIjT6FP\\_pvnk0xrRIjHb5vHOt8s9PMdl4T4a7-cIwss6VcRI6-7cE7I](https://www.mlit.go.jp/koku/content/001707036.pdf?fbclid=IwAR1VkIjT6FP_pvnk0xrRIjHb5vHOt8s9PMdl4T4a7-cIwss6VcRI6-7cE7I)

1 地方空港の便数回復

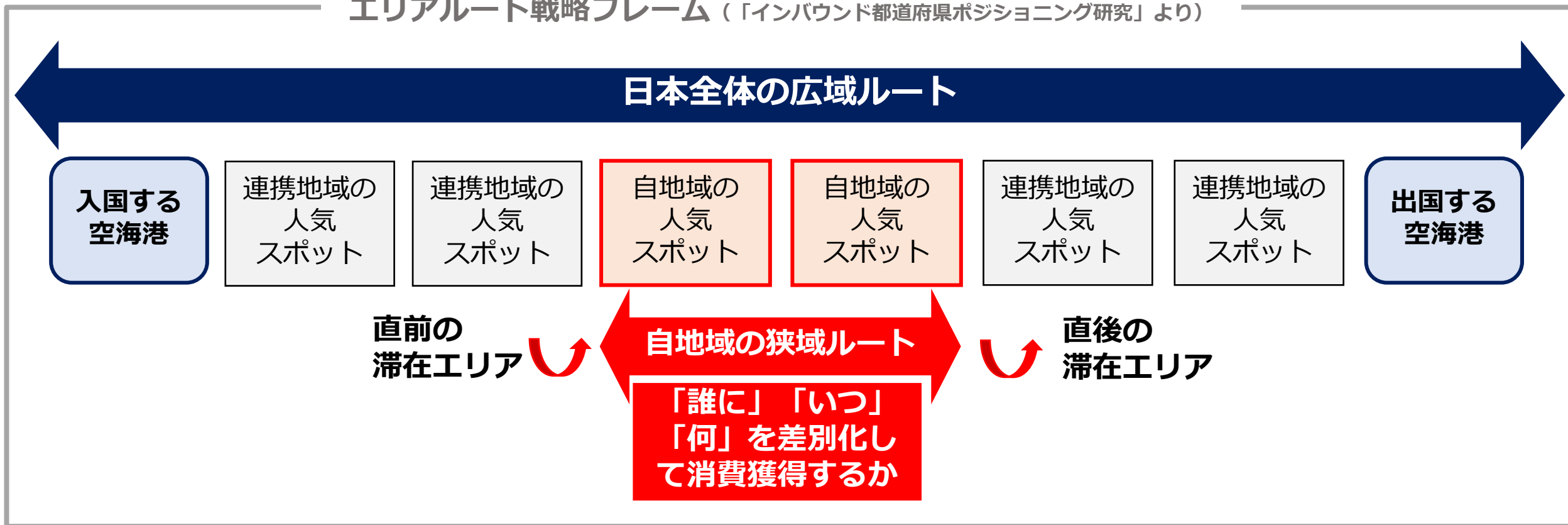
2 クルーズ船の回復

3 地方部含めたルート分散

「地図で読み解くインバウンド地方分散研究」対象

# 地方部を含めたルート分散に必要な観点は？

エリアルート戦略フレーム（「インバウンド都道府県ポジショニング研究」より）



インアウトの空海港をイメージした上で、自地域は旅程でどこに入っているか、前後のエリアはどこで、何をして滞在しているかの把握が必須！



## 課題

エリアルート戦略を立てるために、自地域の状況を把握する必要があるが、  
「**全国でどのようなルートが主要なのか**」 「**自地域は主要ルートに入っているのか**」が不明瞭。

## 課題解決の仮説①

全国＋地域ブロック別の主要周遊ルートを  
ランキング化。日本地図にルートを可視化する。



## 課題解決の仮説②

自地域が主要周遊ルートに入っている場合、  
入っていない場合にあわせて、ルート課題  
を把握できる診断チャートを作成。

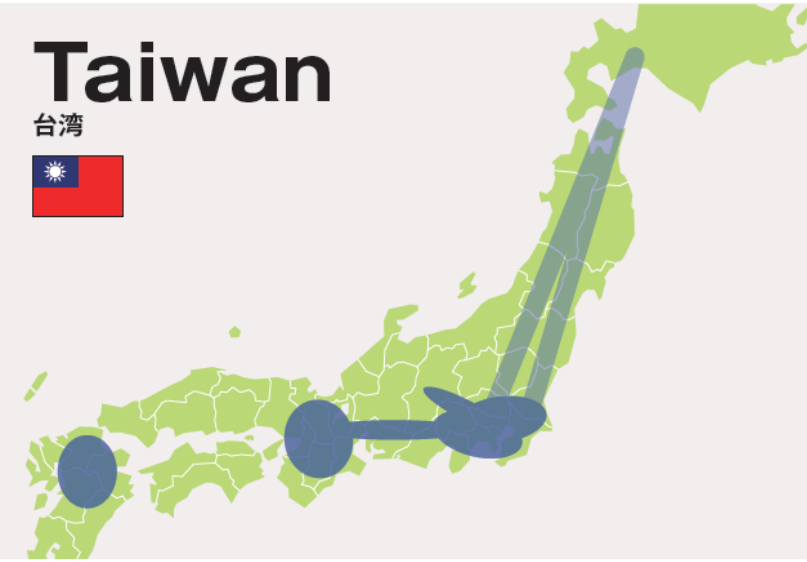


ブログウォッチャー社「デジタル観光統計（訪日版）」を活用し、  
ルートに焦点をあてて共同研究を開始

# 市場別の全国主要周遊ルート概要MAP（2023年1～9月分）

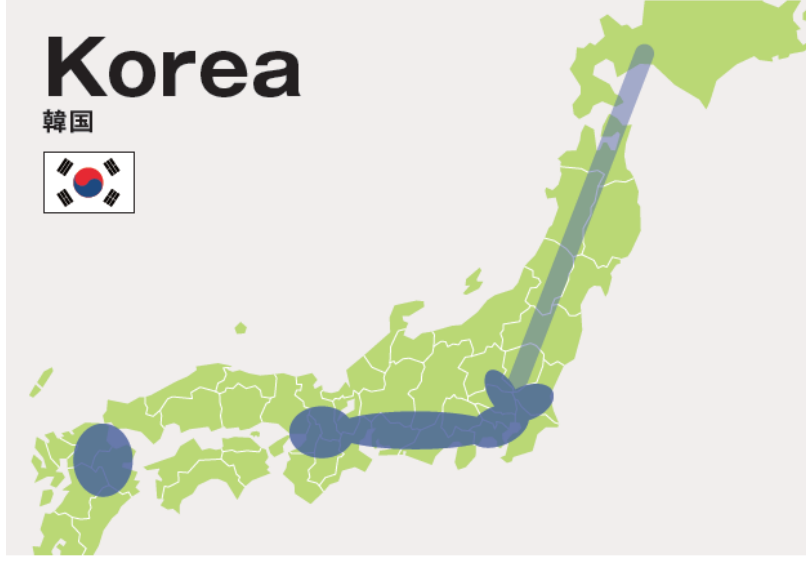
## Taiwan

台湾



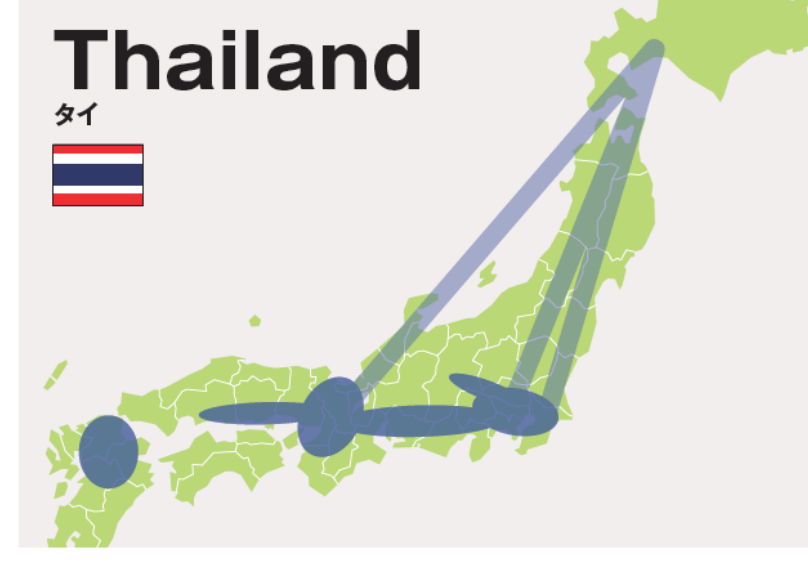
## Korea

韓国



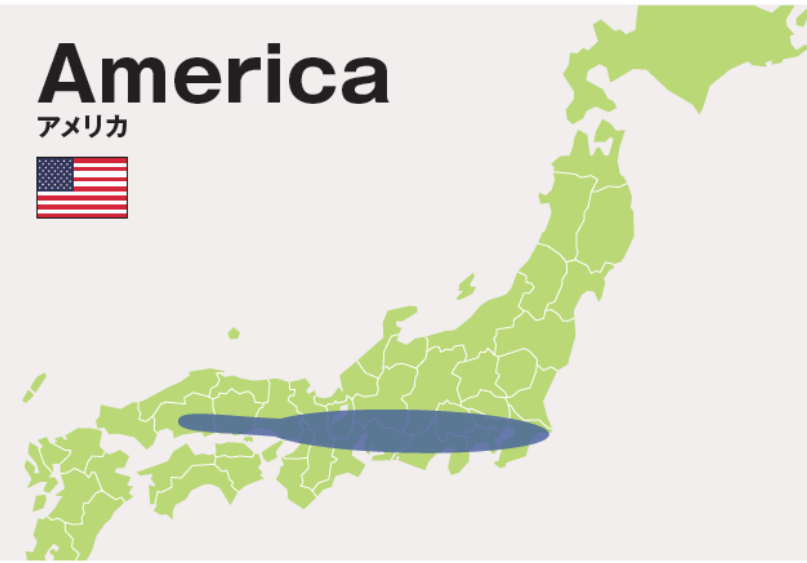
## Thailand

タイ



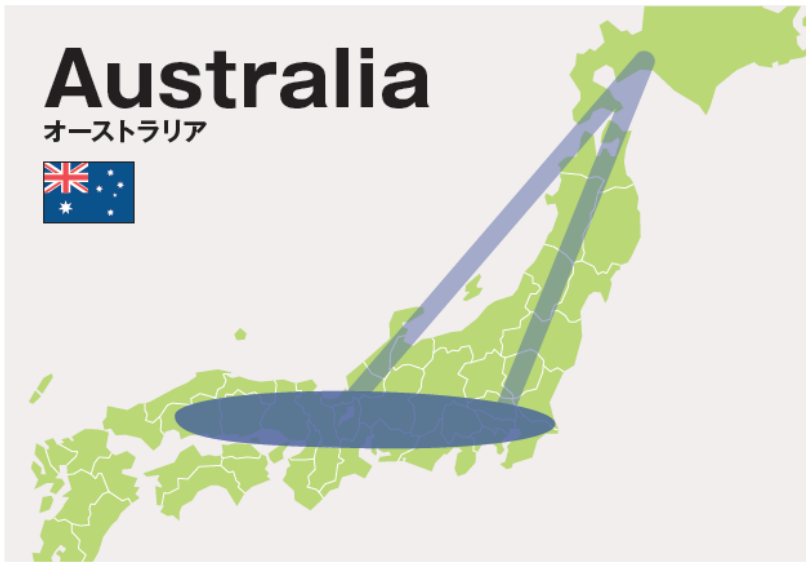
## America

アメリカ



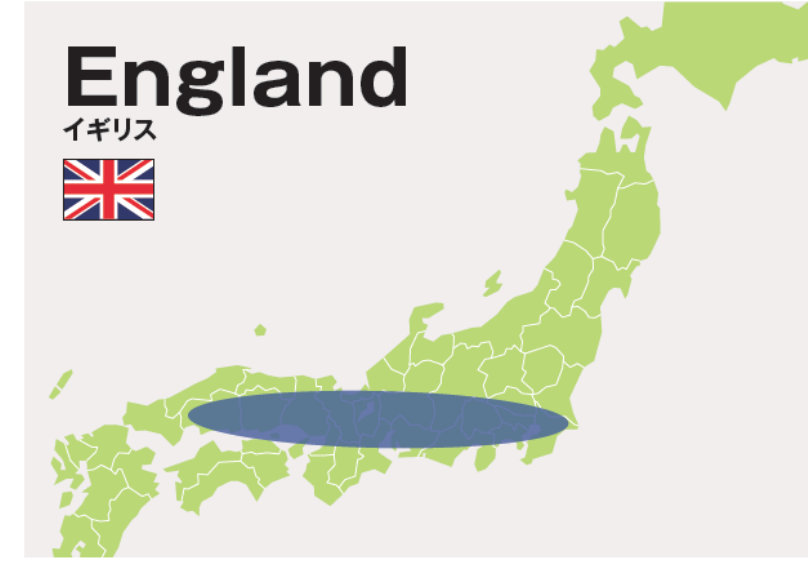
## Australia

オーストラリア



## England

イギリス

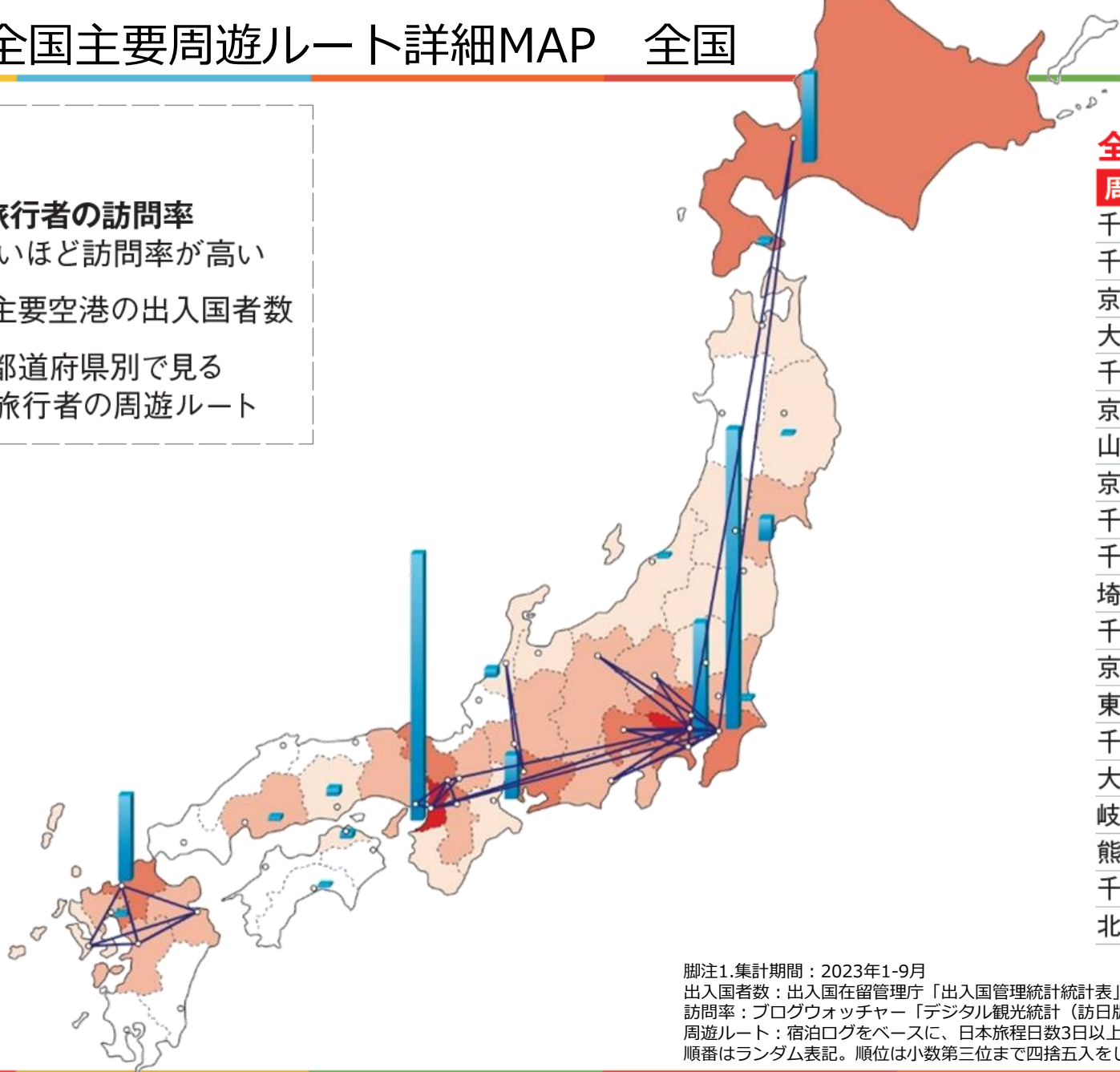


出典：2023年ブログウォッチャー調査「デジタル観光統計（訪日版）」  
宿泊ログをベースにしたルートの組み合わせをランキング化して上位20までのルートを地図化

# 台湾の全国主要周遊ルート詳細MAP 全国

## 凡例

- 旅行者の訪問率  
※色が濃いほど訪問率が高い
- 主要空港の出入国者数
- 都道府県別で見る旅行者の周遊ルート



## 全国トップ20

周遊都道府県	順位	出現率
千葉県－東京都－神奈川県	1	4.50%
千葉県－山梨県－東京都	2	3.48%
京都府－兵庫県－大阪府	3	3.43%
大分県－熊本県－福岡県	4	1.99%
千葉県－埼玉県－東京都	5	1.68%
京都府－大阪府－奈良県	6	1.41%
山梨県－東京都－神奈川県	7	1.34%
京都府－大阪府－東京都	8	1.33%
千葉県－東京都－長野県	9	1.15%
千葉県－大阪府－東京都	10	1.13%
埼玉県－東京都－神奈川県	11	0.99%
千葉県－東京都－静岡県	12	0.85%
京都府－大阪府－滋賀県	13	0.81%
東京都－神奈川県－静岡県	14	0.76%
千葉県－山梨県－東京都－神奈川県	15	0.72%
大分県－熊本県－福岡県－長崎県	16	0.61%
岐阜県－愛知県－石川県	17	0.61%
熊本県－福岡県－長崎県	18	0.55%
千葉県－東京都－群馬県	19	0.52%
北海道－千葉県－東京都	20	0.52%

脚注1.集計期間：2023年1-9月

出入国者数：出入国在留管理庁「出入国管理統計統計表」より空港ごとの出入国者数を算出し、1万人以上利用者がいる空港をマッピング

訪問率：ブログウォッチャー「デジタル観光統計（訪日版）」より都道府県ごとの訪問率を算出（N数=1,250,939）

周遊ルート：宿泊ログをベースに、日本旅程日数3日以上20日以内、都道府県ごとの組み合わせ数3以上で県庁所在地をつないでルート化。

順番はランダム表記。順位は小数第三位まで四捨五入をして算出（N数=47,074、周遊ルートパターン数=1,874）

# 台湾の全国主要周遊ルート 地域ブロック別

## 地域ブロックトップ3

地域	順位
<b>北海道</b>	
北海道－千葉県－東京都	20
北海道－東京都－神奈川県	30
北海道－大阪府－東京都	36
<b>東北</b>	
宮城県－岩手県－青森県	31
宮城県－岩手県－秋田県	48
宮城県－東京都－青森県	50
<b>関東</b>	
千葉県－東京都－神奈川県	1
千葉県－山梨県－東京都	2
千葉県－埼玉県－東京都	5
<b>中部</b>	
千葉県－東京都－静岡県	12
東京都－神奈川県－静岡県	14
岐阜県－愛知県－石川県	17
<b>北陸信越</b>	
千葉県－東京都－長野県	9
岐阜県－愛知県－石川県	17
東京都－神奈川県－長野県	22

地域	順位
<b>関西</b>	
京都府－兵庫県－大阪府	3
京都府－大阪府－奈良県	6
京都府－大阪府－東京都	8
<b>中国</b>	
京都府－大阪府－岡山県	43
京都府－兵庫県－大阪府－岡山県	73
兵庫県－大阪府－岡山県	84
<b>四国</b>	
愛媛県－香川県－高知県	85
岡山県－愛媛県－香川県	92
岡山県－広島県－香川県	120

地域	順位
<b>九州</b>	
大分県－熊本県－福岡県	4
大分県－熊本県－福岡県－長崎県	16
熊本県－福岡県－長崎県	18
<b>沖縄</b>	
千葉県－東京都－沖縄県	94
東京都－沖縄県－神奈川県	121
京都府－大阪府－沖縄県	180

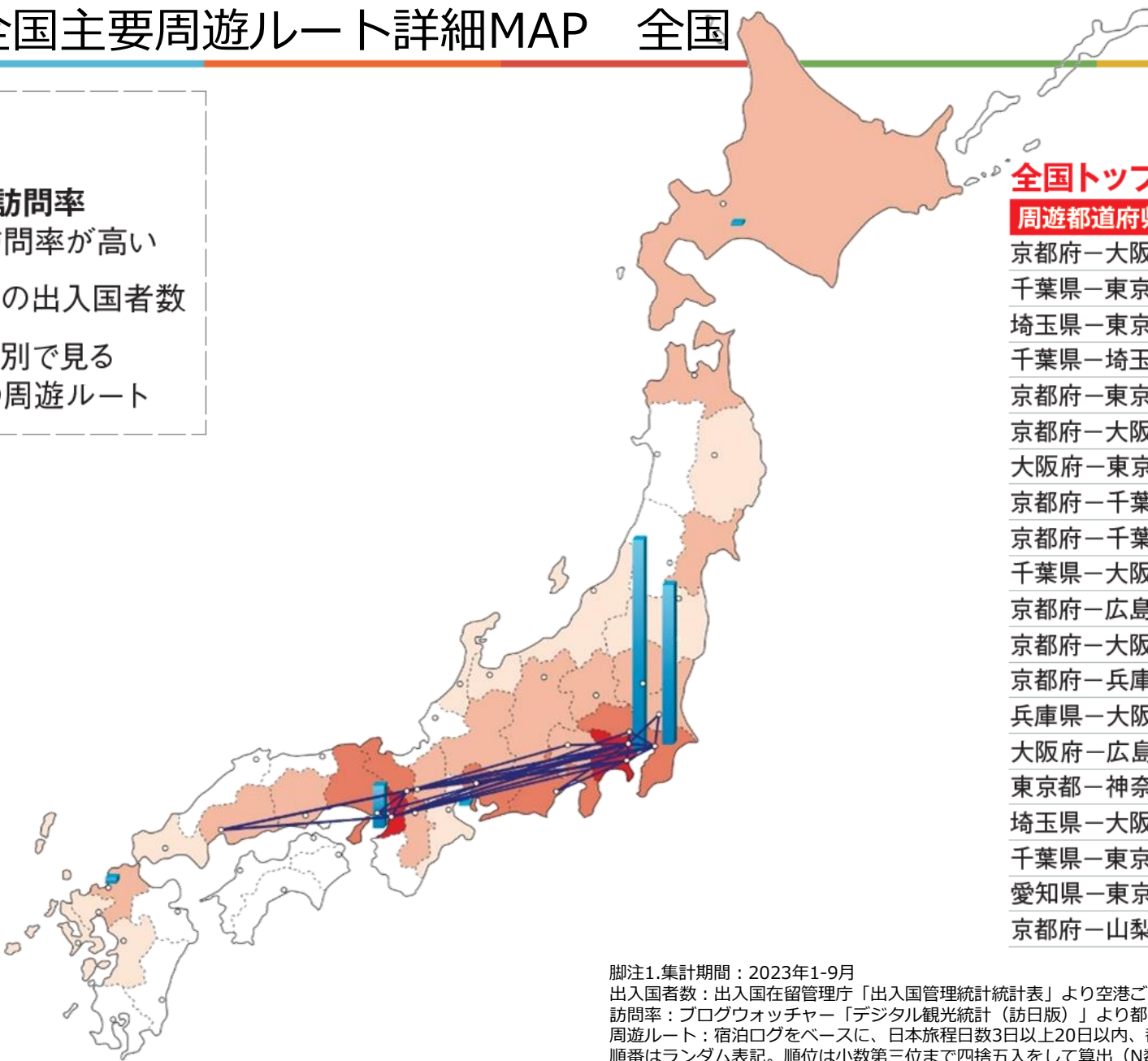
## 地域ブロック区分 (地方運輸局が管轄する単位で分類)

北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、福島県、秋田県、山形県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	新潟県、長野県、富山県、石川県
中部	静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、福井県
関西	滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄	沖縄県

# アメリカの全国主要周遊ルート詳細MAP 全国

## 凡例

- 旅行者の訪問率  
※色が濃いほど訪問率が高い
- 主要空港の出入国者数
- 都道府県別で見る旅行者の周遊ルート



## 全国トップ20

周遊都道府県	順位	出現率
京都府-大阪府-東京都	1	5.80%
千葉県-東京都-神奈川県	2	2.73%
埼玉県-東京都-神奈川県	3	2.58%
千葉県-埼玉県-東京都	4	1.98%
京都府-東京都-神奈川県	5	1.86%
京都府-大阪府-東京都-神奈川県	6	1.35%
大阪府-東京都-神奈川県	7	1.34%
京都府-千葉県-大阪府-東京都	8	1.27%
京都府-千葉県-東京都	9	1.25%
千葉県-大阪府-東京都	10	1.15%
京都府-広島県-東京都	11	0.81%
京都府-大阪府-広島県-東京都	12	0.63%
京都府-兵庫県-大阪府	13	0.55%
兵庫県-大阪府-東京都	14	0.55%
大阪府-広島県-東京都	15	0.55%
東京都-神奈川県-静岡県	16	0.52%
埼玉県-大阪府-東京都	17	0.51%
千葉県-東京都-茨城県	18	0.50%
愛知県-東京都-神奈川県	19	0.47%
京都府-山梨県-東京都	20	0.47%

脚注1.集計期間：2023年1-9月

出入国者数：出入国在留管理庁「出入国管理統計統計表」より空港ごとの出入国者数を算出し、1万人以上利用者がある空港をマッピング

訪問率：ブログウォッチャー「デジタル観光統計（訪日版）」より都道府県ごとの訪問率を算出（N数=2,416,080）

周遊ルート：宿泊ログをベースに、日本旅程日数3日以上20日以内、都道府県ごとの組み合わせ数3以上で県庁所在地をつないでルート化。

順番はランダム表記。順位は小数第三位まで四捨五入をして算出（N数=103,450、周遊ルートパターン数=3,387）

# アメリカの全国主要周遊ルート詳細MAP 地域ブロック別

## 地域ブロックトップ3

北海道	順位
北海道－東京都－神奈川県	21
北海道－埼玉県－東京都	44
北海道－千葉県－東京都	46
東北	順位
宮城県－東京都－神奈川県	48
埼玉県－宮城県－東京都	79
東京都－神奈川県－福島県	85
関東	順位
京都府－大阪府－東京都	1
千葉県－東京都－神奈川県	2
埼玉県－東京都－神奈川県	3
中部	順位
東京都－神奈川県－静岡県	16
愛知県－東京都－神奈川県	19
京都府－大阪府－愛知県－東京都	26
北陸信越	順位
京都府－東京都－石川県	38
東京都－神奈川県－長野県	54
京都府－大阪府－東京都－石川県	60

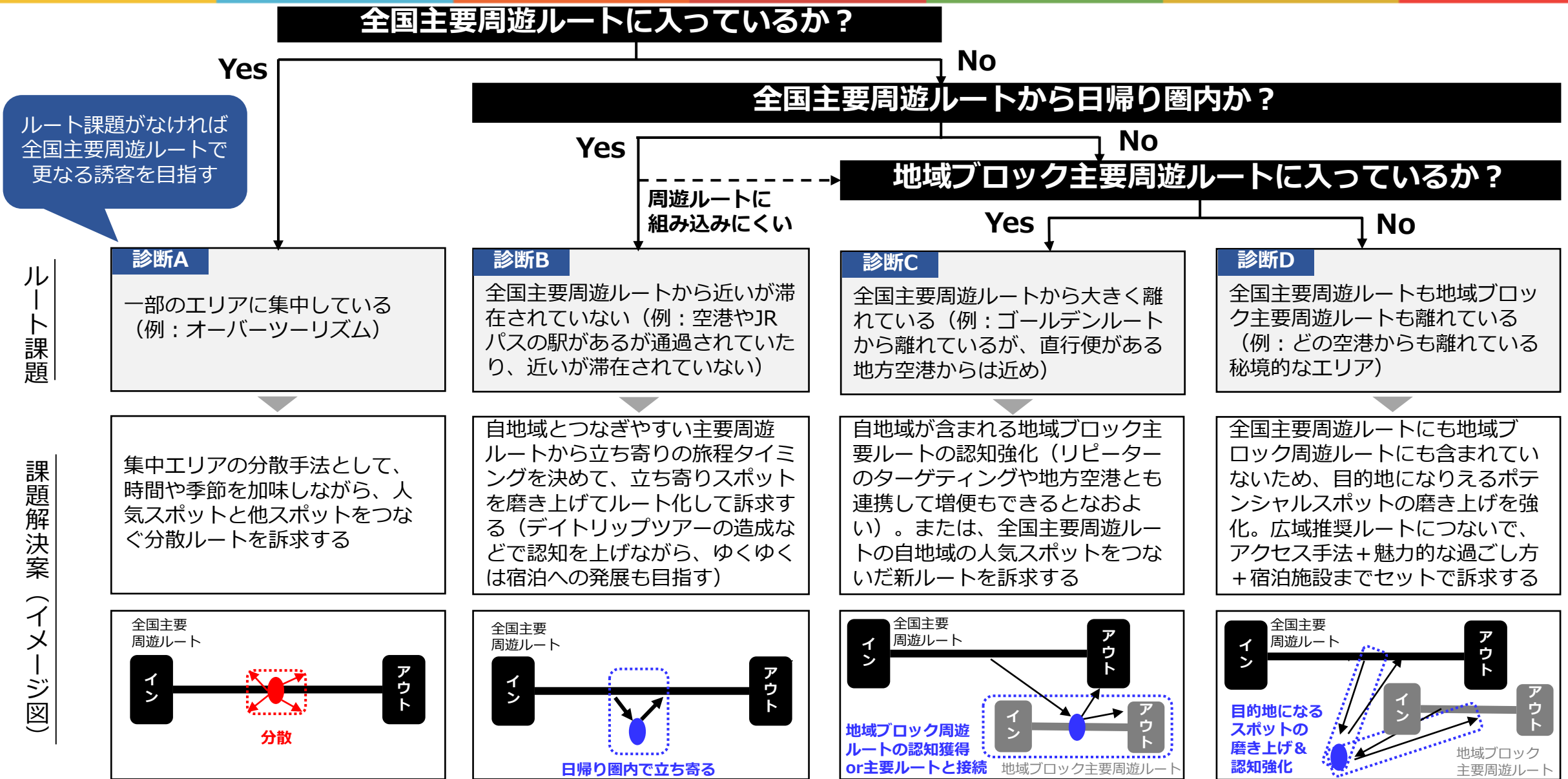
関西	順位
京都府－大阪府－東京都	1
京都府－東京都－神奈川県	5
京都府－大阪府－東京都－神奈川県	6
中国	順位
京都府－広島県－東京都	11
京都府－大阪府－広島県－東京都	12
大阪府－広島県－東京都	15
四国	順位
千葉県－愛媛県－東京都	142
京都府－広島県－愛媛県－東京都－神奈川県	198
兵庫県－大阪府－愛媛県	230

九州	順位
東京都－神奈川県－福岡県	42
大阪府－東京都－福岡県	47
京都府－大阪府－東京都－福岡県	56
沖縄	順位
千葉県－東京都－沖縄県	57
東京都－沖縄県－神奈川県	70
大阪府－東京都－沖縄県	84

### 地域ブロック区分 (地方運輸局が管轄する単位で分類)

北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、福島県、秋田県、山形県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	新潟県、長野県、富山県、石川県
中部	静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、福井県
関西	滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄	沖縄県

# ルート課題を見つけ出す診断チャート（※市場別でチェック実施）



# 新たなモデルルートへの検討ステップ案

検討ステップ	詳細
① ルート課題の把握	MAPと診断チャート使って、市場別にルート課題を把握する。
② 狙いたい主要周遊ルートの候補決定	市場別に優先順位をつけて、自地域で狙いたい主要ルートの候補を、全国主要周遊ルートもしくは、地域ブロック主要周遊ルートから選定していく
③ 候補にしたルートの詳細を把握して自地域の入る余地を検討	候補にしたルートに対して、インアウトの空港、ルートで組み合わせになりやすい都道府県、人気スポットを確認し、自地域でつなげやすいエリアやスポットの当てをつける。
④ 候補にしたルートと比較しながら自地域の強みを決めて磨き上げ	候補にしたルートのスポットと比較して、自地域はどのタイミングで旅程に入る余地があるか、来訪してもらう理由の仮説を設定し、ポテンシャルがあるスポット中心に磨き上げる（HP掲載やSNS投稿で反応のよさ、公共交通機関の活用やJRパスの範囲内でアクセスのよさ、季節限定感など、他データも重ねながらポテンシャルの仮説を探していく）。
⑤ 候補にしたルートとつないで新モデルルートを作成	自地域で磨き上げた強みをベースに候補にしたルートとつないで、新モデルルート案をつくる。※新モデルルート案を必ず現場に行き確認し、アクセス上に課題がないか洗い出して磨き上げも行う（電車の本数や運行時間、スーツケース移動など無理がないか確認する）